

らのことから、早急に DDFP による代替原子炉注水と HPCI の停止を実施することとした。

- ・ 運転員は、HPCI の停止前に既に運転中の DDFP の状況確認及び代替 S/C スプレイから代替原子炉注水へ切替えるための RHR 注入弁を手動にて開操作するために原子炉建屋に向かった。
- ・ 当直長は、中央制御室の SRV の状態表示灯が点灯しており操作可能と考えられたこと、また、運転員が現場に向かってから暫く時間が経っており代替原子炉注水のライン構成は完了していると考えられたことから、HPCI を停止操作することを発電班へ連絡した。
- ・ 13 日 2:42、運転員は中央制御室の HPCI 制御盤にて、HPCI の停止ボタンを押すとともに HPCI タービン蒸気入口弁を操作スイッチで全閉とし HPCI を停止した。この時の原子炉圧力は 0.58MPa まで低下していた。

#### 【DDFP による代替原子炉注水への移行】

- ・ HPCI から DDFP による代替原子炉注水に移行するために、13 日 2:45 に中央制御室の SRV 制御盤にて SRV1 弁の操作スイッチを開操作し、原子炉の減圧維持を試みるも、開動作せず。その後、SRV 全弁を順次、操作スイッチにて開操作するが開動作しなかった。原子炉圧力が上昇し DDFP での注水ができない状況が発電所対策本部へ報告された。
- ・ 一方、HPCI を停止する前に現場へ向かい作業をしていた RHR 注入弁の手動開操作による代替原子炉注水ラインの構成が完了したことが、13 日 3:05 に中央制御室へ伝達された。
- ・ 運転員は、SRV の駆動用窒素ガスが供給されなくて開動作しないと考え、供給ラインからの補給を試みるため現場に向かった。供給ラインの弁は空気作動弁であり、手動で開けることができる構造ではなかった。
- ・ このような中、原子炉圧力が上昇していることから、運転員は、高圧注水として HPCI 及び RCIC の起動を試みることを検討。その後、発電所対策本部は並行して 12 日から準備を開始した電源車を用いた電源復旧を進め、高圧注水が可能ならぬ酸水注入系（以下、SLC）を用いた原子炉への注水の検討、及び消防車の手配を開始した。

#### 【RCIC,HPCI の復旧の状況】

- ・ 13 日 3:35、運転員は、HPCI を起動しようと中央制御室の HPCI 制御盤を確認したところ、運転制御のための FIC の表示が消灯しており起動出来なかった。
- ・ 13 日 3:37、RCIC の起動準備として、RCIC 制御盤にて真空ポンプを起動操